

ロシア帝国第一回人口センサス(1897年)について

山口, 秋義 / YAMAGUCHI, Akiyoshi

(出版者 / Publisher)

法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経済志林 / 経済志林

(巻 / Volume)

76

(号 / Number)

4

(開始ページ / Start Page)

29

(終了ページ / End Page)

52

(発行年 / Year)

2009-03-09

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00003970>

ロシア帝国第一回人口センサス (1897年) について

山口 秋 義

序

人口調査は古代の中国、エジプト、ローマ帝国、ギリシャ、等において既に行われていたが、近代的センサスとしては1790年のアメリカ合衆国人口センサスが最初であった¹⁾。

これに約100年遅れ、ロシアにおいて最初の人口センサスが実施されたのは1897年であった。人口センサスが実施された1897年前後は、戦争、凶作と飢饉、革命運動とテロの活発化、など、ロシアにとって社会的混乱の時代であった。すなわち、1879年皇帝暗殺未遂、1881年皇帝暗殺、1891年の凶作と飢饉、1892年チフスとコレラ流行による多数の死者の発生、とが続いた²⁾。

1897年人口センサスは、1846年ベルギー人口センサスを範とし、主として万国統計会議における論議を通じて確認された人口センサスに関する諸原則を、人口数と領土面積とにおいて当時最大の国家へ適用する試みであ

1) 1790年合衆国人口センサスに関して次の研究がある。伊藤陽一「アメリカ合衆国第一回人口センサス(1790年)について」『経済志林』第58巻第3・4合併号, 239-298ページ。

また、1750年スウェーデン人口センサスが世界最初であったという見解もある。

В.М. Медков. Демография. Москва, 2004. стр.94.

2) 1892年の死亡者数は440万人,死亡率は38.80/00であり,この1年間の人口減少は57万人に達した。Н. Аннесенский. Несколько итогов голодного года - Два слова о предстоящей переписей населения. «Русское Богатство» 1896, 286, стр. 153-165.ここでは内務省医務局が発行した次の文献からデータを引用している。「Отчёт Медицинского департамента Министерства Внутренних Дел за 1892г.»。

った。しかし、このセンサスは、上記のような社会混乱、教育水準の低さ、民族構成の多様さ、などに起因した多くの問題を露呈するものでもあった。

本稿の課題は以下の諸点である。

第一に、18世紀以降行われていたレヴィジヤと呼ばれる人口調査に代わり、人口センサスが導入されるに至った社会的背景を検討することである。

第二に、他国における統計活動がロシア人口センサスの方法論に与えた影響を、1872年第8回万国統計会議サンクトペテルブルグ会議を通じて検討することである。

第三に、実査と集計作業とにおいてどのような困難が生じ、そのことが結果数値の真実性にどのように反映したかを検討することである。国民の間に広がったセンサスに関する噂や根拠のない期待、迷信に基づく調査忌避、など国民のセンサスに対する態度を、調査員等の報告資料に基づいて検討する。

第1節 調査史における位置

第1回人口センサス以前における人口統計についてМедков (2004) に従ってみる³⁾。

ロシアにおいて初めて人口調査が行われたのは8世紀であるとされる⁴⁾。当時タタールモンゴルの支配下にあったロシアの諸公 (князь) が、タタールのハーン (汗) 等の求めに応じてそれぞれの領地における人口数の調査を行った。調査の目的は貢税の大きさを決めることであった。タタールモンゴル支配下における課税単位はヤサーク (ясак) と呼ばれ、毛皮などの現物税が主たる税源であった。その後「タタールのくびき」が終焉し、14世紀から主たる課税対象は耕地となり、耕地面積に応じた税制が採用された。当時の耕地面積単位をソハー (соха) といい、測量台帳が作成さ

3) Медков. Указ. соч.

4) キエフルーシとノヴゴロドとにおいて9世紀に行われたのが最初という説もある。Медков. Указ. соч., стр.67.

れた。この測量台帳は面積単位のソハーから転じてソハー証書（сошные письма）と呼ばれた。各地で作成された測量台帳を集計して課税台帳が作成された。課税台帳管理人をピセーツ（писец）と呼んだので課税台帳をピスツォーヴィエ・クニーギ（писцовые книги）と呼んだ。これら課税台帳の中に人口数に関する情報が示された⁵⁾。

17世紀以降農戸人口調査（подворная перепись）が行われ、これを記録したセンサス台帳（переписные книги）が作成された。農戸人口調査が行われるに至る背景として、課税単位が耕地面積から農戸へと変更され、地主は自身が所有する農戸数に応じて納税するという、税制の変更があった。またピョートル1世治世下のロシアは相次いで隣国との戦争に突入した。すなわち、1700年から1721年までのスウェーデンとの北方戦争、1699年から1700年、及び1710年から1724年までのトルコとの戦争、とである。戦費調達のための徴税が強化され、地主等は徴税を逃れるために複数の農戸を1つにまとめて申告し、また調査を担当する官吏への賄賂が横行した⁶⁾。このような事情が背景となり、1710年に行われた最後の農戸調査の結果は、政府の予測に反して前回の1678年調査と比して約20%の農戸数の減少を示した。ピョートル1世は1716年から1717年にかけて再調査を行うよう命じたが、その調査結果は1678年の農戸数の3分の2を示すに過ぎなかった。

徴税をより効率的に行うため、徴税単位が農戸から人頭へと変更された。主たる税制が人頭税へと変更されるに伴って、1719年に最初の農奴調査（подушные переписи）が行われ、レヴィジヤ（ревизия）と呼ばれた⁷⁾。レヴィジヤは第1回（1719年-1724年）から第10回（1857年-1859年）の10回行われたが、人頭税の対象とならない、職業軍人、貴族、官僚、

5) Там же, стр.67.

6) Там же, стр.68.

7) 第1回から第10回までのレヴィジヤ各回に関する詳細な検討がなされた研究として次のものがある。П.И.Пустоход. Подушные переписи-ревизии в России - причины возникновения ревизии -. «Очерки по истории статистики СССР». М.,1955. стр. 57-94.

外国人，等は調査対象とならなかった。これらの階層に属する人々の数を記録した統計情報として次のものがあつた。すなわち，各県において作成された貴族家系帳（родословная дворянская книга）を集計した貴族勘定（учёт дворянства），宗務庁によって作成された聖職者勘定（учёт духовенства），県税務庁が作成する商人名簿と戸籍謄本（метрическая выписка），とにもとづいて作成された，都市住民勘定（учёт городских сословий），とであつた⁸⁾。また当時ロシア帝国の支配下にあつたポーランドとフィンランドはレヴィジヤの対象外であつた。レヴィジヤの調査期間は表1に示すように長期に亘つた。その理由は農奴所有者である地主と農奴管理人が徴税逃れを目的として多くを隠蔽しようとしたからであるという⁹⁾。

またこのことから推測しうるように数値の真实性は低かつた¹⁰⁾。人頭税の課税対象は成人男性だけであり，従つてレヴィジヤに示される女性の人数はより不正確であつた。また年齢についても多くの場合，顔つきから判断していたという。

1861年の農奴解放は「自由な」労働力を創出し人口移動が活発となつた。これに伴つて人頭税の徴収が次第に困難となつていく。1874年に国民皆兵制が導入されたが，1858年に最後のレヴィジヤが行われて以降，徴兵に利用するに十分なデータがなかつた。当時の徴兵制はすべての男子が16歳から20歳までの期間に兵役登録を行い，20歳になったときに抽選で兵役に就くというものであつた。1875年以降16歳男子の人口をレヴィジヤに基づいて得ることはできなかつた。すなわち，1858年レヴィジヤによって出生が確認された男子は1874年に16歳になっていたからである。また1802年の内務大臣通達に基づいて各県知事から提出されるようになった統計報告は，

8) 貴族，聖職者，都市住民に関する統計情報のリストが次の文献に示されている。

Очерки развития вопроса о всеобщей народной переписи в России. «Временник ЦСК» No.16, 1890, стр.12-17.

9) Медков, укз.соч., стр.32.

10) Брокгауз. указ. соч., стр.75.

1858年レヴィジヤ以降人口数に関する主要な情報源となったが、数値の真実性は極めて低かった¹¹⁾。このように国民皆兵制に必要なデータの欠如が強く意識されるようになり、人口センサスの実施が喫緊の課題となった。

このような社会変化に伴う政治的要請とは別に、西欧における統計活動に触発され人口センサスの必要を訴える統計家等の動きがあった。ロシア帝国地理学会は1845年の設立時から人口センサスの必要を訴えた。その中心人物は1862年から1882年まで内務省中央統計委員会議長を務めたペ・ペ・セミョーノフ¹²⁾であった。1895年に人口センサス法が制定されるまでの50年に亘る論議については別稿においてふれた¹³⁾。

人口センサス実施をめぐる長期に亘る論議が交わされるのと併行して、幾つかの都市において人口センサスが行われている¹⁴⁾。1862年から1917年までに200以上の地方人口センサスが行われ、内半数は1897年の第一回全国人口センサス以降に行われている。1897年以前に大都市において行われた人口センサスとして、1869年、1881年、1890年、とにおけるサクトペテルブルグ人口センサス、1882年におけるモスクワ人口センサス、とがある。1882年モスクワ人口センサスにはレフ・トルストイが調査員として参加している¹⁵⁾。

さて、1790年にアメリカ合衆国人口センサスが行われて以降、人口センサスは、1800年にスウェーデンとフィンランドとにおいて、1801年に英

11) 県知事報告は大変不正確なものであった。各年度版統計集を相互比較し、県知事報告に基づく人口数がいかに不正確なものであったかが、次の文献に示されている。В. Пландовский. Народная перепись. СПб., 1898. стр. 307-309.

12) セミョーノフのロシア統計学史における位置付けに関する論考として次の文献がある。見野貞夫「ロシア統計学史上におけるセメーノフの地位について」『六甲台論集』2(3), 1956年2月, pp.53-77.

13) 拙稿「第一回ロシア帝国人口センサス法について」『九州国際大学経営経済論集』第14巻第2・3合併号, 2008年3月, pp.97-98.

14) 19世紀半ばから20世紀までのロシア人口統計に関する文献目録として、村知稔三「19世紀後半—20世紀のロシア人口統計に関する露語文献リスト(上)(下)」『長崎大学教育学部紀要—教育科学—』第67巻, 2004年6月, pp.29-45, 第68巻2005年3月, pp.43-68.がある。このリストは村知が、サクトペテルブルグのロシア国民図書館において閲覧した文献に基づいて作成したものである。網羅的かつ正確であり資料的価値が高い。

国、フランス、デンマーク、ノルウェー、とにおいて実施された。1846年にベルギーにおいてアドルフ・ケトレー指導下に人口センサスが実施され、その後ロシア人口センサスに大きな影響を与えた。1846年ベルギー人口センサスで採用された諸原則が、1853年第一回万国統計会議ブリュッセル会議決議において人口センサスの範として各国へ勧告された。すなわち、人口センサスは少なくとも10年に一度行われるべきこと、現在人口と法定人口とを区別し現在人口を採用すべきこと、氏名、年齢、性別、宗教、職業、等が調査項目となるべきこと、とであった¹⁶⁾。

表1 レヴィジヤ調査期間と総人口数

レヴィジヤ	調査期間	推定人口
第1回	1719-1727 (9年)	1,400万人
第2回	1744-1747 (4年)	1,500万人
第3回	1762-1765 (4年)	1,900万人
第4回	1782-1787 (6年)	2,800万人
第5回	1794-1808 (15年)	3,600万人
第6回	1811-1812 (2年)	4,100万人
第7回	1815-1825 (12年)	4,500万人
第8回	1833-1835 (3年)	6,000万人
第9回	1850 (1年)	6,800万人
第10回	1857-1860 (14年)	7,000万人

出所：Ф.А. Брокгауз, И.А.Ефронъ. Энциклопедический словарь Россия. стр.75.

Госкомстат. Российская государственная статистика 1802-1996. с т р. LXXXIII.

その後、ケトレーを名誉議長として迎えた1872年万国統計会議第8回サ

15) トルストイはモスクワのハモプニキ地区を調査員として担当した。彼は論文「モスクワのセンサスについて」О переписи в Москвеのなかで極貧にある人々を前に調査員が淡々と業務を進める姿に疑問を示している。Л.Н. Толстой. Собрание сочинений в 22-х томах. М., издательство Художественная литература, 1983. т.16, стр.97-105.

16) ウェスターゴード著、森谷喜一郎譯『統計學史』昭和18年、栗田書店、229ページ。

ンクトペテルブルグ会議において、これら諸原則が決議として各国へ勧告された¹⁷⁾。サンクトペテルブルグ会議決議に示された提言はその後多くの国において採用され、実施されるセンサスの数が急増した。すなわち、1870年代には48であったセンサスは、1880年代には54、1890年代には57、1900年から1910年までは74、へと増加した¹⁸⁾。

このように1846年ベルギー人口センサスにおいて採用された諸原則が、1872年万国統計会議サンクトペテルブルグ会議を通して、その後のロシア人口センサスと他国の人口センサスとにおいて採用されるに至った。

第2節 センサスの技術的・方法論的特色

(1) 統計調査の4要素（単位・時・場所・標識）

調査票設計にいたる統計調査の技術的過程をみる。

センサスによって把握された人口カテゴリーは、現在人口、定住人口、法定人口、とであった。これら3つの人口カテゴリーを実査において把握しつつも、集計は主として現在人口に基づいて行われた。これは1846年ベルギー人口センサスに倣ったものであった。調査票は1世帯につき1枚ずつ記入された。

調査時は、露暦1897年1月28日（新暦2月9日）の朝とされ、特定の時間に限定されない曖昧さを残した。調査対象地域はロシア帝国の全土とされた。

標識としての調査項目は次の14であった。すなわち、1) 名前、父称、またはあだ名、2) 婚姻状態（独身、既婚、離婚、死別）、3) 世帯主との関係、4) 性別、5) 年齢、6) 身分、7) 信仰、8) 出生地、9) 定住地と住所

17) 人口センサスに関するサンクトペテルブルグ会議の勧告は次の文献に示されている。Восьмая сессия международного статистического конгресса въ С.-Петербургѣ - доклады и постановления - . 1873. стр.14-22. また、万国統計会議は次の12回行われている。1853年ブリュッセル、1855年パリ、1857年ウィーン、1860年ロンドン、1863年ベルリン、1867年フローレンス、1869年ハーグ、1872年サンクトペテルブルグ、1873年ウィーン、1874年ストックホルム、1876年ブダペスト、1878年パリ、とである。

18) Медков. Указ. соч., стр.67.

登録地または国籍, 10) 居所, 11) 母国語, 12) 職業, 13) 識字能力, 14) 身体上の障害, とであった。これらの調査項目に民族属性が欠けていたことは, 多民族国家における人口センサスの不備として指摘されなければならない。また職業に関する項目はあったものの, 従業上の地位を問う内容となっていなかった。さらに, 識字能力の水準に関する理解が曖昧となり, 教育水準の構成が不明となった。

(2) 聞き取り調査の形態

調査票は3種類が用意され, A票が農民と農村住民用, が農場主と農村の自家所有者用, B票が都市住民用, として使用された。A票とB票は調査員が聞き取り内容を記入する他者記入方式によって, またB票は被調査者による自己記入方式によった¹⁹⁾。しかしこのことが実査における困難をもたらす。すなわち, 都市住民の識字率は低く自己記入方式は実態に合わなかったからである。

(3) 調査票の配布と回収

調査票は都市部では実査の10日から15日前に事前配布され, 回収は1月28日から31日にかけて行われた。調査員は回収された調査票を点検し, 必要な修正を加え, 調査票の複写を作成した²⁰⁾。調査票の複写は地方において保管された²¹⁾。原本は地方における一次集計結果と一緒に中央統計委員会へ送付された²²⁾。

(4) 集計

集計作業のすべてを内務省中央統計委員会センサス部が担当した。セン

19) 過去のロシア人口センサスにおいて自己記入方式が採用されたのは1897年センサスだけである。2010年センサスにおいて再び採用されることが計画されている。

20) 複写の作成に関する規程はセンサス法第33条にある。しかし, 複写作業を中央センサス委員会から突然求められた予定外のものとして捉えた末端の調査員も少なくなかった。Н.П. Шпейнфельд. Дневник заведывающего участников въ глухой провинции. «Русское Богатство» 1897, 8, стр.15.

21) 調査票の複写を独自に集計したいという要望がいくつかのゼムストヴォから提出されたが, 中央センサス委員会によって却下された。

А. Котельковъ. Исторія производства и развотки всеобщей переписи населенія 28-го января 1897 г.. СПб., 1909. стр.41.

サスに対して最終的な責任を負うとされた中央センサス委員会は、1895年11月15日から1897年5月30日まで実査と集計計画とをめぐって98回もの会合をもった。しかし集計方法や出版計画にかんして、論を得るに至らず、集計作業は作業計画を含めて中央統計委員会へ一任された²³⁾。中央センサス委員会は統計利用者である各省の要求を十分に考慮することができなかった。このことが後日他省からの不満を招くこととなる。例えば、中央統計委員会と同じく内務省傘下にあった医務局（Медицинский департамент）は、1899年に発表した報告書のなかで、死亡率算出にあたって人口センサスデータを利用する上での問題について、概ね次のように指摘している²⁴⁾。死亡数に関するデータは教会によって教区ごとに作成され、これらの教区には都市周辺地域も含まれる。しかし人口センサスに示される都市人口に

22) ロシア国立歴史公文書館（РГИА: Российский Государственный Исторический Архив）に所蔵される中央統計委員会フォンドの内訳は次のとおりである。このうち1897年センサスに関する公文書はОпись10として保管され、調査票原本はОпись11として保管されている。ロシア国立歴史公文書館は移転のため2005年4月に閉鎖された。

РГИА фонд № 1290.

Опись1: Материалы об учреждении и деятельности учреждений - предшественников ЦСК, 1826-1862 гг.

Опись2: Дела учреждений и деятельности ЦСК и статистического совета, 1863-1917.

Опись3: Дела о службе чиновников статистических учреждений России.

Опись4: Статистические сведения о населенных местах. (м/ф) (マイクロフィッシュ)

Опись5: Сведения по городской, промышленной и финансовой статистике. (м/ф) (マイクロフィッシュ)

Опись6: Сведения по сельскохозяйственной статистике.

Опись7: Статистические листки о продаже наделов земли.

Опись8: Статистические листки военно-конских переписей.

Опись9: Журналы входящих и исходящих документов.

Опись10: Дела о подготовке, проведении и разработке данных Первой Всероссийской переписи населения и о подготовке Второй переписи.

Опись11: Переписные листы Первой Всероссийской переписи населения。また、皇帝ニコライ2世の調査票の職業欄には「ロシアの大地の主」（Хозяин земли русской）と記入されている。Люди счёт любят. «Вопросы статистики» 2008 №9, стр.4.

23) Котельковъ. Указ. соч., стр.42-43.

24) Там же, стр.52-53. データの出所は、「Санитарное состоянте городов Российской Империи в 1895 г.」である。

は周辺人口が含まれず、死亡率を算出するための分子と分母とが対象とする地域が照応しない。これは、統計作成と要求との間に齟齬が生じた例である。

集計機械としてアメリカ製の電算機ホレリス (Hermann Hollerith) が採用された。この機械が最初に採用されたのは1890年のアメリカ合衆国人口センサスにおいてであった。その後1891年にオーストリア人口センサスにおいて採用され、1897年のロシア人口センサスにおける採用に至る。集計作業は概ね次のような手順を経て行われた²⁵⁾。すなわち、調査票原本に記載された情報のコード化⇒パンチカードへの穿孔⇒点検⇒パンチカードの電算機への挿入、とである。パンチカードの大きさは8×17cmであり、1枚につき264の穴あけ作業がなされた。これらの作業を経て得られた数値に基づいて手作業による製表が行われた。集計作業を担当したのは約2,200人の女性臨時職員であった。彼等の多くは中高等教育を受けたものであったが、調査票記載情報のコード化の理解と、電算機操作の習得とにおいて困難が見られた。臨時職員に対する指導は不十分であった。1部屋に75人から200人程度の臨時職員が座って、コード化と穿孔作業を進めたが、彼等を管理するリーダーは1部屋につき1名であった。調査票記載情報をコード化するにあたり、これらリーダーが直接細部に渡る指導を行うことはまれであった。こうして調査票は中央統計委員会の統計専門官による点検を経ることなく、倉庫から臨時職員の手によって直接持ち出され作業に付された²⁶⁾。集計作業が開始されるや、集計方法の欠陥を指摘する多くの論説が現れた²⁷⁾。集計作業は電算機操作の習得を含めて、適切な計画なしに進められたようである²⁸⁾。

集計作業開始後、アメリカからホレリス電算機の発明者の一人であるフレッチャーがサンクトペテルブルグを訪れ使用方法について直接指導し

25) Там же, стр.46-48.

26) Там же, стр.46.

27) Там же, стр.51.

28) Там же, стр.102.

た。また調査票記載情報をコード化するための詳細なマニュアル²⁹⁾があったものの、実際には結果数値へ大きな影響を与えるコード化の誤りが少なくなかった。すなわち、コード化と穿孔とが不適切であったために、集計結果の中に不可解な数値が示された。たとえば、キルギス人がカトリック教徒であるとか、フランス人が正教徒であるとか、モスクワ県において多数のカムイク人が遊牧を営んでいる、といったものである。これらは中央統計委員会議長の命令によって出版前に修正された³⁰⁾。

(5) 公表

集計結果はセンサス実施から2年を経た1899年から出版され、1905年に完了した³¹⁾。1899年にアルハンゲリ県に関する集計結果を出版したのを皮切りに、各県・州、4大都市（サンクトペテルブルグ、モスクワ、オデッサ、ワルシャワ）、との集計結果が公表された。各県の第1分冊の前に第2分冊が出版されるなど、公表の順序は無秩序であり、中央統計委員会がどのような計画の下に作業を進めたか不明であるという³²⁾。また当時ロシア帝国の領土であったフィンランドに関する集計結果が独立した出版物となっていない³³⁾。

第3節 調査組織の編成と制度的特色

(1) 実査組織

実査組織の編成を「第1回ロシア帝国人口センサス法」の規程に基づい

29) Центральный Статистический Комитетъ Министерства Внутренних Дел. Пособія при разработкѣ первой всеобщей переписи населенія. Изданіе второе, 1898 года. №. №. 2, 3, 4, 5, 6, 7, и 8. С.-Петербург, 1899.

30) В.Евдокимов. Великий счёт - о переписях населенія в Россіи-. «Дружба народов» 1970, 2, стр.234.

31) 各県の集計結果は次の文献にある。Первая всеобщая перепись населенія Россійской Имперіи, 1897 г. Изданіи Центрального Статистическаго Комитета Министерства Внутреннихъ Дель. Подъ Редакцію И.А. Тройницкаго. Т1-89., 1899-1905.また全国集計結果は次の文献に示されている。Общий свод по имперіи результатов разработкы данных первой всеобщей переписи населенія, произведенной 28 января 1897 года. т.т.1-2. СПб.,1905.

32) Котельковъ. Указ. соч.,стр.102.

て見る³⁴⁾。センサス全体に責任を負うのは内務大臣であり、彼を議長とする中央センサス委員会が調査票の設計、指示書の作成、人員派遣、予算算定、などのセンサスに関わる基本計画を作成する。中央センサス委員会(Главная переписная комиссия)の委員は、財務省、国防省、国家統制省、との3省からの代表と、中央統計委員会議長とであった(第7条)。統計利用者としての各省はこれに参加せず、統計への要求を汲取る制度的手立てが不十分であった。中央センサス委員会の事務作業は中央統計委員会が担当した。

実査を担当する地方組織として県センサス委員会が設置された。県センサス委員会議長を県知事が務め、委員として、県貴族会長、県税務庁長官、軍代表、県ゼムストヴォ議長、県ゼムストヴォ議会議員1名、とが参加した(第11条)。県センサス委員会の下部組織として郡センサス委員会が設置された。郡センサス委員会議長を郡貴族会長が務め、委員として、郡警察署長、郡軍司令官、税務検査官、郡ゼムストヴォ議長、郡ゼムストヴォ議会議員1名、市長、とが参加した(第12条)。

このように、中央センサス委員会、県センサス委員会、郡センサス委員会、ともその構成員に統計専門家は殆どいなかった。

また、都市部³⁵⁾において特別センサス委員会が設置された(第6条、第

33) センサス実施から約4ヶ月を経て開催されたロシア帝国地理学会総会における報告の中で、セミョーノフはフィンランドを含めた集計結果を次のように紹介している。総人口：129,211,000人、ヨーロッパロシア50県：94,000,000人、その他辺境：35,000,000人(うちフィンランド：2,500,000人、ポーランド：9,440,000人、カフカス：9,720,000人、トルケスタン：4,180,000人、沿カスピ海州：3,415,000人、キルギスステップとシベリア：5,730,030人) П.П. Семеновъ. Характерные выводы из первой всеобщей переписи. - Сообщение Вице-председателя ИРГО П.П. Семенова в общем собрании ИРГО 7-го мая 1897 года. «Известия» т.33, СПб. (1897?) Стр.257. フィンランドはセイムと呼ばれる議会をもち自治権があった。1800年には独自に人口センサスを行っている。センサス法案作成の過程においてフィンランドを全国人口センサスの対象にするかの論議があった。法案をめぐる論議は次の文献に収録されている。Центральный Статистический Комитетъ Министерства Внутренних Дел. Свод мнений по отдельным статьям Положения о первой всеобщей переписи населения. СПб., 1897.

34) Положение о первой всеобщей переписи населения Россійской Имперіи. Петергоф, 5-го іюня 1895.

14条)。

これら地方組織の活動を相互に調整することを目的に、地方全権が派遣された（第6条）。

(2) 調査員の構成

調査員の登用は各地方のセンサス委員会に任され、全国で約13万5千人の調査員が動員された³⁶⁾。

ここではサンクトペテルブルグにおける調査員の構成を例としてみよう³⁷⁾。サンクトペテルブルグ市内を41調査区、周辺地域を9調査区、とに分け、これらのうち複数の調査区を同時に管轄する19名の調査区長がサンクトペテルブルグセンサス委員会によって任命された。19名のうち市内の調査区長として、中央統計委員会、土地省農業統計部、財務省、運輸省、市役所、とからの代表、4名の大学教授、名の軍将校、医師、兵士、その他の政府機関職員、とが任命された。また周辺地域における調査区長として、地区判事、郡ゼムストヴォ職員、医師、役場の技術者、砲兵将校、工場事務職員、などが任命された。彼等の多くは、1869年、1881年、1890年、との3回行われたサンクトペテルブルグ人口センサスに、調査員として参加した経験を有した³⁸⁾。末端の調査員として2,800名が参加し、このうち497名が軍将校、654名が官僚、1,024名が学生、とであった³⁹⁾。このように、調査区長から調査員にいたるまで、統計専門家は少なかった。

(3) 調査環境

(i) 国民の間に広まった噂

多くの国民はセンサスへの心理的準備ができていなかった。彼等は恐れ

35) 対象となった都市は、サンクトペテルブルグ、モスクワ、ワルシャワ、ニコラエフスク、クロンシュタット、オデッサ、セバストポリ、ケルチ、とであった。

36) Омскстат. Первая Всеобщая перепись населения 1897 года. Omsk.gks.ru このサイトには調査員へ贈呈された記念メダルの写真が掲載されている。メダルはサンクトペテルブルグ造幣局において製造された。

37) И.И. Вильсон. О переписи населения С.-Петербурга 28-го января 1897г.. СПб., (1897?), «Известия» т.33, стр.271-283.

38) Там же, стр.274.

39) Там же, стр.274.

を抱き、センサスから逃れようとしたものが少なくない。国民の間に広まった噂や根拠のない期待、非協力の実態、とを調査員等の証言を基に検討する。ここで主として依拠する資料は、地方における活動の相互調整を目的として派遣された地方全権代表の報告書である⁴⁰⁾。彼が担当した地域は、トヴェリ県、ヤロスラヴリ県、コストロマ県、との3県であり、これら諸県の195調査区長と3,403人の調査員とから寄せられた報告が原資料となっている。当時の調査環境がセンサスの結果数値へどのように影響したかをみよう。

① 徴税に関する噂

農奴解放後人々の移動が活発となり、農民の多くが都市部へ出稼ぎに出るようになった。職業に関する質問項目への回答にあたり、増税や新税導入への不安を多くの農民が抱き、出稼ぎなど副業所得を申告しない傾向が見られた⁴¹⁾。また家主等は固定資産の増税を恐れ、調査への協力を拒むものが現れた。彼等にとってセンサスは、固定資産税申告が正しいかどうかの点検のように思われた⁴²⁾。ある家主は調査員に涙ながらに評価額を低くしてほしいと頼んだという⁴³⁾。

また住民が住民数の一部を隠蔽しようとしたという報告がある⁴⁴⁾。なぜなら、すべての縫い子と織工は新たな税の支払を求められるという噂が、女性の間で広まっていたからである。そのため、何らかの内職仕事を一人で行っていた女性は、いかなる仕事にも就いていないと答えたという⁴⁵⁾。また投資利得で生活している者は、所得について申告することを拒んだ。小商人は自らの商取引について申告しない傾向が強かったし、作業請負人

40) Я.А. Площевский-Плющикъ. Суждения и толки народа объ однодневной переписи 28-го января 1897 года -Материалы для истории первой всеобщей переписи народонаселения-. СПб., 1898.

41) Там же, стр.57.

42) Там же, стр.57.

43) Там же, стр.57..

44) Там же, стр.12. Романово・Порисогребуск郡第1調査区の調査員による報告

45) Там же, стр.12.

は自分が労働者であり親方ではないと言ったという⁴⁶⁾。真実を申告するのを拒むこれらすべての行為が、結果数値における大量の無業者という虚構へ繋がった。都市ブルジョアジーのあいだでは新税導入への恐れが特に強かった。彼等にとってセンサスは、財産調査であると映った。また人頭税復活を恐れた人々が家族成員を隠蔽する試みがあったことが報告されている⁴⁷⁾。

② 戦争・農奴制復活・強制移住の噂

〈戦争の噂〉

近く戦争があり、センサスの目的は新たな徴兵対象者を調べることであり、という噂が広まり、兵役逃れのための偽装結婚が増えた⁴⁸⁾。同様の報告は各地から寄せられている⁴⁹⁾。戦争が近く、兵力増強の可能性を試算するためにセンサスが行われているという噂は、小商人の間にも広がった⁵⁰⁾。

〈農奴制復活の噂〉

政府が農奴制復活を計画し、農奴再分割のための小規模農民数の調査が行われているという、根拠のない噂も各地で広がった⁵¹⁾。

〈強制移住の噂〉

都市部へ出稼ぎに出た農民を、センサス終了後住民登録地へ強制的に連れ戻す計画がある、という噂が広まった。また、キリスト教の洗礼を受けた農民をシベリア開拓のために強制移住させる計画があり、これがセンサスの主たる目的であるという噂も根強かった⁵³⁾。

③ 土地分与への期待

これら悲観的な噂とは別に、土地の追加分与に関する根拠のない期待が

46) Там же, стр.13.

47) Там же, стр.17.トヴェーリ県ノヴォトルジェスク郡の調査員ヴェ・プレオブラジェンスキーの報告

48) Там же, стр.59.

49) Там же, стр.10. リビンスク郡第16調査区長の報告

50) Там же, стр.10. ルジェフ市の調査員コルトインの報告

51) Там же, стр.18.

52) Там же, стр.14.

53) Там же, стр.18.

旧農奴のあいだに広まった。ある調査員の報告には次のように述べられている。「住民の大半は皇帝が農民生活向上のためにセンサスを行うのだと話していた。生活向上とは、土地を必要としている者へ追加分与することである」⁵⁴⁾。また他の調査員は次のように報告している。「大多数の住民はセンサスを自分に得かどうかという視点からみていた。そして彼等に広い土地を与えるためにセンサスが行われると信じていた」⁵⁵⁾。従ってこれらの農民は職業の調査項目に正直に答える傾向があり、多くの場合、自分たちの生活の苦しさを調査員に訴えたという⁵⁶⁾。このような土地追加分与に関する根拠のない期待は次の事実によって全く偶然に補強された。すなわち、人口センサスが準備されていた時期とほぼ同時に、耕地の質に関する調査が県統計委員会によって行われていたからである⁵⁷⁾。

土地分与に関する期待はやがて薄れ、センサスへの非協力的態度へと変わっていく。ある調査員は述べている。「土地に対する自分たちの期待が外れて、農民たちはセンサスに無関心に応じるようになった」⁵⁸⁾。

④ 迷信

宗教を背景とした迷信も広がりを見せた。キリスト生誕以前のローマ帝国において行われていた人口調査をセンサスと呼んだという史実から、「センサスは反キリスト世界の前兆である」⁵⁹⁾ という噂が広まった。このような終末思想と関連して、センサスへの非協力が見られた。ある調査員は次のように述べている。「一人の老いた抵抗者がセンサス時に門に立ち、白髪頭を掌で抱え溜息をつきながら繰り返し言ったことが思い出される。『最後の時が来た』と」⁶⁰⁾。あるいは原始信仰を背景として、センサスから逃れるために焼身自殺を図った者がいた⁶¹⁾。またセンサスの全期間を

54) Там же, стр.14. ロマノヴォ・ポリソグレブスク郡第2調査区調査員の報告

55) Там же, стр.15. モログスク郡第4調査区長でゼムスキーナチャリニクの報告

56) Там же, стр.15.

57) Там же, стр.15.

58) Там же, стр.15.

59) Там же, стр.14.

60) Там же, стр.13.

通じて組織的に非協力を貫いた分離派教徒（ラスコリニキ）があった⁶²⁾。

(ii) センサスへの国民の態度

国民がセンサスに対して概ねどのような態度をとったかを、階層別にみる。

〈下層農民〉

旧農奴であった下層農民は調査に対して大変協力的であったことが伝えられている。ある調査員は次のように述べている。「下層階級の人々に私はいたるところで親切に迎え入れられた。テーブルにサモワールのあるところではお茶を供され、家族で朝食や昼食を摂っているところでは一緒にご馳走になり、あるいはただ休んでいけといわれた。質問には進んで回答し、包み隠さず詳細であった。ここでは人々が疑念を持つ余地などなかったし、ただの好奇心だけがあった」⁶³⁾。彼等が協力的であったのは、土地分与や賦役軽減などの恩恵を期待してのことであったという。先にふれたように、手工業などの副業を営む比較的豊かな農民が副業に関する回答を拒否したのとは対照的である。

〈都市ブルジョアジー〉

都市ブルジョアジーは調査員を概して冷たく受け入れたという。「あるときは軽蔑的な態度で迎えられた。……〈中略〉……商人たちは調査員を横目で見、おそらく調査員を何らかの捜査員であるかのように疑っていた。そして質問には嫌々回答し、おそらく何かを隠そうとしていた」⁶⁴⁾。これらの人々はセンサスを徴税のための新しい調査方法とみていたようである。また他の調査員も同様に次のように報告している。「商人や裕福な市民は愚弄するような態度を見せた」⁶⁵⁾。調査員は次のような質問を浴びせられたという。「何であなたたちはそんなことを知りたいのですか」「調査に応じる

61) Медков. Указ. соч., стр.70.

62) Там же, стр.69-94.

63) Там же, стр.18. ルジュフ市の調査員コルトインの報告

64) Там же, стр.19.

65) Там же, стр.20.

暇はありません、仕事がありますから」「ご満足のいただける答えなど何もできませんよ」⁶⁶⁾、と。

〈都市労働者〉

都市労働者の中には出稼ぎ農民が多く、彼等の間には住民登録地へ強制移住させられるという噂があり、概して非協力的であった。また調査時に自宅に不在であったものが多く、彼等の多くが調査から漏れたことが報告されている⁶⁷⁾。

〈貴族と聖職者〉

センサスに最も協力的であったのは貴族と聖職者とであった。彼等は自身が協力的であっただけでなく、人々にセンサスの目的と意義とをわかりやすく説明したという⁶⁸⁾。

(iii) 教育水準がセンサスへ与えた影響

農民の教育水準が低く、このことがセンサスへ与えた影響は大きかった。例えば、農民は自分の正確な年齢を知らない場合が多かった。年齢についての回答は、「48か49とでも書いておいてください」というもので、このような場合、兵役に就いた年や、結婚した年、土地分与を受けた年、などを問うて間接的に年齢を推測するしかなかった⁶⁹⁾。

またよその土地から嫁いだ老人女性の中には、自分の故郷の県名を知らない人が多かった。これはかつて農奴であった人にしばしば見られた⁷⁰⁾。

また自分の家族の名前を知らない農民がいた⁷¹⁾。

以上のように、国民はセンサスへの心構えができていなかったし、多くの人々は恐れを抱き、教育水準の低さという当時の特殊な社会状況から、調査環境は極めて劣悪であった。

66) Там же, стр.20.

67) Вильсон. Указ. соч., стр.276.

68) Плюшевский-Плющикъ. Указ. Соч. Стр. 20. カリヤジン市の調査員シャプロフの報告

69) Там же, стр.11. 同様の指摘は次の文献にも示されている。Статистик. К вопросу о постановке всеобщей переписи. «Русское Богатство». СПб., 1896, сентябрь, стр.18-27.

70) Там же, стр.11.

結び

本稿において第1回ロシア帝国人口センサスが実施されるまでの社会的背景、センサスの方法論的特徴、調査組織と制度的特徴、とについてみた。改めて要点をまとめれば次のようになるだろう。

① 社会的背景

ピョートル1世によって開始されたレヴィジヤなどの、旧来の人口統計が根柢となり人口センサスの実施を促した主たる国内要因は、1861年の農奴解放、1874年の国民皆兵制、1887年の人頭税撤廃、とであった。農奴解放後人口移動が活発となり、人頭税対象リストと実際の人口分布とが大きく乖離するようになり、これが人頭税撤廃へと繋がっていく。また、県知事報告に基づいた人口統計も真実性が低く、国民皆兵制に必要な人口データとして耐えうるものではなかった。このような事情が背景となり、レヴィジヤに代わる人口センサス実施の要求が高まっていく。

これらの国内要因のほかに、万国統計会議を中心とした国際統計活動の影響があった。1846年ベルギー人口センサスにおいて採用された諸原則が、1853年第1回万国統計会議ブリュッセル大会に続き、1872年第8回サンクトペテルブルグ大会においても決議として各国へ勧告された。サンクトペテルブルグ大会にはアドルフ・ケトレーが名誉議長として招かれ、このような決議の採択において彼の影響は大きかった。

その後ロシア国内における長期に亘る論議を経て、1895年これらの原則に則ったセンサス法の制定にいたる。

71) Шпейнфельдъ. Указ. соч., стр.12.

農民による次のような会話が紹介されている。

—かあちゃん、うちの若い何ていったかな。

—若いのですか。

—うん。

—何だっけ。セ、セ、セリファンだったかね。

—何だって？

—シリファンとでも書いておいてください。調査員の旦那様。

このように、かつてのレヴィジヤに代わる人口センサス導入を促した背景には、1861年の農奴解放以降顕著となった国内状況の変化があった。またこれと併せて、ケトレー指導下の1846年ベルギー人口センサスと万国統計会議における論議に、セミョーノフ等統計家達が触発されたことも指摘しなければならない。

② 結果数値の真実性

実査の過程において、国民の間に悲観的な噂や根拠のない期待が広まった。すなわち、徴税強化、強制移住、戦争、土地追加分与、とに関する噂や期待が広まり、或いは宗教的迷信に基づいてセンサスへ組織的抵抗を示す勢力もあった。これらは全、虚偽の回答や調査漏れへと繋がった。

また集計作業を担った中央統計委員会臨時職員の認識に起因した、統計の正確性の低さが生じた。すなわち、調査票情報のコード化とパンチカードへの穿孔作業とが不適切であったために、不可解な集計結果が導かれた。これは、センサス法の規程によって、集計計画を作成すべきとされた中央センサス委員会がこの任務を果たさず中央統計委員会へ一任し、集計作業を担った臨時職員等に対する指導が不十分であったためである。また、統計利用者である各省庁の要求も十分反映されなかった。

③ 公表の遅さ

センサス集計結果は調査実施2年後の1899年から始まり、1905年に完了した。出版が完了するまでの7年間という長い年月を経て、ロシアの人口構成は大きく変化した。すなわち1904年からの日露戦争によって多くの若者が戦死し、センサス集計結果と実際の人口構成とは大きく乖離した。従って1897年人口センサス結果を行政目的に利用することに限界があった。他方、レーニンは『ロシアにおける資本主義の発展』において1897年センサス結果をグループ分けし、ロシアにおける階級構成の特徴を描いている。行政目的利用を目論んで実施された人口センサスが、革命運動へ資料を提供することとなった。

④ 調査組織

センサスの実査組織は中央直轄型であり、これが調査の全期間を通じて概ね有効に機能したことが、ソヴィエト政権下において、中央集権的集中型統計組織である中央統計局設置（1918年）にいたる論議へ繋がった点を指摘しなければならない⁷²⁾。

さて、ロシアの人口センサスは、1790年アメリカ合衆国人口センサスから100年以上遅れて実施された。1897年ロシア人口センサスは、1846年ベルギー人口センサスを範とし、1872年万国統計会議サンクトペテルブルグ会議決議において各国へ勧告された人口センサスの諸原則を、領土面積、人口数、民族構成の多様性、とに関して他国を凌駕する規模において、実践した世界の人口統計史における画期的な出来事であった。

しかしこの挑戦は、教育水準の低さなど当時の社会状況に制約されて、実査における多くの困難を露呈するものであった。これら調査環境に関わる問題の一部は今日のロシアにおいても克服されていない。

72) この経緯については、拙著『ロシア国家統計制度の成立』梓出版社、2003年、において検討した。

ロシア人口統計史年表

	ロシア社会情勢		ロシア人口統計		諸外国統計活動・国際会議
1703	サンクトペテルブルグ遷都	1719	第1回レヴィジヤ開始		
1724	人頭税導入		この間8回のレヴィジヤ		
1740-43	スウェーデンとの戦争			1790	アメリカ人口センサス
1768-74	トルコとの戦争			1800	スウェーデン・フィンランド人口センサス
1787-91	トルコとの戦争			1801	英・仏・デンマーク・ノルウェー人口センサス
1812	ナポレオンロシア侵略			1846	ベルギー人口センサス
1814	露軍パリ入城			1853	万国統計会議（ブリュッセル）
1853-56	クリミア戦争			1855	第2回会議（パリ）
1855	日露和親条約	1857	第10回レヴィジヤ開始	1857	第3回会議（ウィーン）
1861	農奴解放			1860	第4回（ロンドン）
1863	人頭税一部廃止			1863	第5回会議（ベルリン）
1864	ゼムストヴォ設置	1864	サンクトペテルブルグ人口センサス	1867	第6回会議（フローレンス）
		1869	サンクトペテルブルグ人口センサス	1869	第7回会議（ハーグ）
				1872	第8回会議（サンクトペテルブルグ）
				1873	第9回会議（ウィーン）
1875	千島樺太交換条約			1874	第10回会議（ストックホルム）
1877-78	露土戦争	1877	『ロシア帝国居住地調査』全42巻出版	1876	第11回会議（ブダペスト）
1879	皇帝暗殺未遂			1878	第12回会議（パリ）
1881	皇帝暗殺	1881	サンクトペテルブルグ人口センサス	1880年代	48の人口センサス実施
		1882	モスクワ人口センサス	1890年代	57の人口センサス実施
1891	第1回メーデー 凶作と飢饉				
1896	ペテルブルグゼネスト	1897	第1回全国人口センサス		
1898	社会民主労働党第1回大会	1899	センサス集計結果出版開始		

1901	エスエル結党			1900-10	74の人口センサス実施
1903	ポリシェビキとメン シェビキに分裂				
1904	日露戦争開戦				
1905	血の日曜日事件 ポーツマス条約 第1次ロシア革命失敗	1905	センサス結果出版完了		

The First population Census of the Russian Empire: the Russian Empire Census of 1897

Akiyoshi YAMAGUCHI

《Abstract》

This article aims to elucidate the historical position of the first population census of the Russian Empire, the Russian Empire Census conducted in 1897. The focus is as follows;

First, the social background through which the population census replaced the existing population survey (Reviziya) is clarified. The paper explains how the Reviziya had become maladaptive, following the abolition of the poll tax (1887), military conscription (1874), and the liberation of the serfs (1861).

Second, the influence of international statistical activities, centering on the International Statistical Congress, is examined. The model for the Russian Empire Census of 1897 was Belgium's population census of 1846. The influence of the discussion at the eighth Congress in St. Petersburg (1872), when Adolphe Quetelet was invited to serve as honorary chairman, is clarified.

Thirdly, it is shown that difficulty of the survey conditions had a negative influence on the results. The spread of rumors of a tax increase and war, etc. in the provinces is examined based on the testimony of the investigators.

Fourthly, it is shown that technical problems in the overall work, etc. had a negative influence on the numerical accuracy of the census results.